

東京外国語大学 国際日本研究センター

社会言語部門主催 講演会

「消滅危機方言から見えてくること —奄美語の場合—」

講演者: 木部暢子氏
(国立国語研究所)



国立国語研究所・時空間変異研究系教授。九州大学大学院文学研究科修士課程を修了後、鹿児島大学法文学部教授、学部長などを経て現職。著書に『方言の形成』(共著、岩波書店、2008)、『日本語アクセント入門』(共著、三省堂書店 2012)などがある。

2012年10月25日(木) 16:00~17:30

東京外国語大学府中キャンパス内
研究講義棟1階 102室

- ◆JR中央線「武蔵境」駅のりかえ西武多摩川線「多磨」駅下車徒歩5分(JR新宿駅から約40分)
- ◆京王電鉄「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスにて約10分 「東京外国語大学前」下車

2009年、UNESCO(国連教育科学文化機関)が“Atlas of the World's Languages in Danger”で日本では8つの言語が消滅の危機にさらされているとした。そのうちのひとつである奄美語は、現在「確実に危機にある」とされている。そのほかの琉球諸語と同様、歴史に翻弄され、話者が減り、継承が難しくなっている。本講演では、奄美語についての基本的な情報を紹介し、木部氏の研究成果を交え、日本にも存在する「危機言語」の現状について考える。

社会言語部門 : 坂本恵 河路由佳 降幡正志 伊集院郁子 前田達朗

お問い合わせ: 国際日本研究センター

TEL:042-330-5794 メール:info-icjs@tufs.ac.jp

